

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900488
法人名	吉田興産有限会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 19 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に囲まれている場所に位置しており、桜やコスモス、紅葉等、季節感を肌で感じることができる場所にあります。</li> <li>・近くに小学校があり、定期的な交流会を図ったり、年1回近隣の方を招いた納涼祭を開催したりとグループホーム内外の行事に参加したり、開催したりもしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園に囲まれた自然豊かな環境の中に、2階建て事業所は建てられている。居室の窓からは、河川敷の桜並木など四季折々の草木の移り変わりや、時折走る一両編成の汽車を見ながら日常生活をゆったりと過ごすことができる。玄関ホールの大らかな水槽には亀を飼っており、来客者を出迎えてくれる。管理者は事業所の理念である「笑顔と思いやり」を念頭に置き、利用者や家族、近隣住民、職員に対して優しい対応や声かけに努めている。事業所で七夕や納涼祭、節分などを開催する際には、公民館や短大などにパンフレットを置いてもらう周知の工夫をしており、近くの小学生や地域住民の参加が定着している。短大の実習を受け入れたり、コーラスや楽器演奏、紙しばいのボランティアの訪問も多いほか、近隣住民から野菜などのおすそ分けをもらう関係ができており、地域に密着した事業所づくりをしている。また、管理者や職員が一丸となって、尊厳ある支援をしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)  
氏名 富永 正樹

評価完了日 平成 26 年 12 月 19 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 見えやすいところに事業所理念を掲示し、日々確認をしながら日常生活のケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 「笑顔と思いやり」という理念を基にして、認知症という病気を理解しながら、声かけなど利用者への優しい支援を心がけている。事業所として会議や事業所での話し合いの中で理念の確認を行っている。毎年年末に行われる法人での合同会議では、各職員が個人の年間目標を立て、日常の支援に活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームで行事を行う際には、近隣の方々に参加していただいたり、こちらから出向いていたりしている。また、近所の方から野菜をいただいたり、ボランティアの方にも来ていただいている。</p> <p>(外部評価) 近隣住民が育てた野菜のおすそ分けをもらうことも多く、野菜の入っているキャリーを見て近所のどこの人が持ってきてくれたか分かる関係性が築けている。最近ではゆずをいただき、利用者はゆず湯を楽しんでいる。事業所では七夕や納涼祭、節分などを開催する際には、公民館や短大などにパンフレットを置いてもらう周知の工夫をしており、近くの小学生や地域住民の参加が定着している。また、短大の実習を受け入れたり、コーラスや楽器演奏、紙しばいのボランティアの訪問があり、交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 実習生やボランティアの方たちの受け入れ等を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者様の日常生活の様子やサービス提供情報等も毎回報告している。 推進委員の方々も積極的に行事等にも参加していただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域住民、町担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。参加者から会議の司会進行やあいさつなどを事業所以外で行いたいという意見が出され、実践している。会議では事業所の取組みなどを紹介すると、次回までの取組みに関して提案ももらっている。利用者本人や家族の参加が少ないため、管理者は参加しやすくなるよう検討しているほか、会議と合わせて勉強会なども議題に含めることも検討している。また、テープ起こしをして会議録を作成して、事細かく活発に意見交換をされている様子を伺うことができる、	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域で開かれる研修等の案内や定期的に介護保険状況報告を受けたりしている。空き情報の連絡をとり、待機者の負担軽減にも心がけている。	
			(外部評価) 運営推進会議などを活用して、事業所の空き状況や利用者の状況等を伝え、町担当者や地域包括支援センター職員との連携に努めている。また、介護保険の更新時などには町担当課の窓口へ直接出向いている。また、町や地域包括支援センター主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束となる行為や身体拘束を行わないケアについての話し合いをスタッフ会議等で行っている。 安全上やむを得ない場合は、ご家族に説明、相談し理解のうえ許可を得ている。	
			(外部評価) 定期的にスタッフ会議で身体拘束に関する研修を実施し、職員は理解している。ユニットの出入口は日中オートロックを解除し、利用者が自由に行き来できるようにしている。現在、拘束となる行為は行っていないが、必要なケースが出た場合にはスタッフ間で検討を行い、管理者は拘束しなくても対応できることを考慮していきたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の研修に参加したり、内部で勉強会を開催することで虐待防止の徹底を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修で学んだことを、内部の研修に活かすことで全職員の周知を図っている。また、ご家族より相談等があった際には、必要に応じて相談、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書、重要事項説明書に添い説明している。不安や疑問点についても尋ね、十分な説明が行えるようにしている。介護報酬改定の際には、説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付の第三者機関を掲示したり、意見等を投函できる意見箱を設置している。ご家族面会時には日常生活の様子や要望等がないかこちらから声かけするようにしている。	
			(外部評価) 日常生活支援の中で、利用者の会話や表情から意向を確認している。家族には面会時など管理者やリーダーから積極的に話しかけ、意見を言いやすい環境を提供している。また、遠方の家族には毎月事業所だよりの送付時に、利用者の状況等を記載して報告をしている。玄関には手作りの意見箱を設置しているが、管理者は「ほとんど意見は出されない」と話されていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 自由に意見や提案を出せるように気づきの箱を設置している。また、意見を出してもらうだけでなく、職員に意見、要望等がないか聴く姿勢にも努めている。	
			(外部評価) 定期的に行われるスタッフ会議で職員から意見を聞いている。職員から意見を言いにくい場合があることも想定されるため、管理者は職員一人ひとりから夜勤帯などを利用して意見を聞いている。新人職員には頻繁に管理者から声をかけ、意見を聞いたり相談に応じるようしている。また、職員への「気づき箱」も設置し、レクリエーションの充実のための物品や調理器具購入などの意見や提案が出され購入するなど、職員の意見を反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員に適した勤務体制づくりや、定期的に話し合う機会を設け希望等も聴いている。 また、毎年の目標を掲げ、振り返ることで日々の向上にもつなげている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示したり、資格取得についての相談、アドバイスも行いながら資格取得の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業者の勉強会やイベントに参加したり、こちらのイベントにも参加していただいたりと交流を図っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただいたり、本人様の生活歴や昔話等を聴かせていただき、入居した際には、本人様の生活していた環境により近い支援ができるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用するにあたり、ご家族が抱えている悩み等を聴き、安心して入居していただけるように支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居するのではなく、本人様、ご家族が今一番必要としているサービスの支援ができるように話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その日の体調に応じお手伝いをさせていただいたり、一緒に家事を行い、共に支えあい生活しているという環境づくりを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、本人様の状態を報告するとともに、月1回の状態報告書も送付するようにしている。遠方から来られるご家族のためにも宿泊できる環境も整えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 駅、バス停等から来訪することが困難な方には事業所での送迎を行ったり、遠方から来られた方には宿泊できる環境も整えている。 また、本人様と馴染みの深い場所にドライブに行ったり、買い物をしたりしている。 (外部評価) 遠方の家族が面会に来やすいよう事業所内で宿泊できるよう配慮しており、公共交通機関を利用する場合は利用者と一緒近くの駅まで家族を送迎する場合もある。利用者が昔から通っている「たいこまん」の店に行ったり、昔良く参拝していた神社に散歩に出かけたりするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また、外出した際には生家に立ち寄る場合もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関係を把握するにあたり、個々の性格や気持ちを職員が理解し、必要な際には職員が間に入り利用者様同士の関わりが築いていけるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院によって退居された方には、オムツ購入の支援やお見舞いにも行かせていただき、必要、要望に応じ相談支援等を行い、すぐに関係が断ち切れることのないようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の行動や表情、自然な会話の中からその人の思いや希望を汲み取るようにしている。上手に思いが汲み取ることができない本人様に対しては過去の生活歴や日常生活の様子から希望に沿えることができるよう努めている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が、日頃の支援を通して会話や表情、行動から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。聞き取りや思いの把握が困難な利用者には、家族や利用開始前の事業所担当者、馴染みの人などから情報をもらい、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様やご家族から生活歴や趣向等の情報を聴き、これまでの暮らしの把握に努めている。 前の事業所などの担当者の方にも連絡をとり、情報提供をしていただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活において”できない部分”のみに焦点をあてるのではなく、”できる部分”の把握に努め、できない部分に対してのみの支援を心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様、ご家族の希望を取り入れたプランの作成に努めている。また、担当者会議や日々のケアを通して本人様の意向に沿った支援ができているか確認したり、プランに基づいた介護を職員が統一して行えるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を確認しながら、より良く暮らすためにはどうすれば良いかを利用者毎の担当者に確認し、介護職からの意見も取り入れて介護計画を作成している。作成された計画は職員全員に周知し、確認したらサインをもらうようにしている。新人職員にも介護計画の見方など分かりやすいよう説明している。介護計画の更新時の会議には、家族の参加が少ないがあらかじめ電話などで要望を聞くようにしている。また、介護支援専門員が定期的に職員に意見を聞きながらモニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを作成し、日々の様子や状態、ケアの実践等を記入している。記録をもとに職員間で情報を共有し、ケアの方法や介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅生活が可能となった場合には、状況に応じて訪問介護やグループホームへのショートステイも可能である。また、介護タクシーを利用することで、遠方へ出かける際の体の負担軽減も図っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域で行われる行事への参加や、学校との交流会も開いている。また、その人に応じた病院の選択や地域の消防団の方々とも連携をとっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居前に本人様やご家族と相談し、かかりつけ医を決めてい る。個別に受診ノートを作成し、職員は必ず目を通すように している。本人様の状態に応じ、内科だけでなく、眼科や歯 科への通院支援も行っている。 ご家族には報告を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう配 慮している。協力医と連携が取れているため、かかりつけ医 を協力医に変更する利用者も多い。専門的な治療が必要に なった場合には、協力医を含めて適切な対応をしている。遠 方の病院以外の受診は職員が同行し、受診ノートを活用して 職員全員が目を通し情報を共有できるようにしている。看護 職員と連携しながら利用者の状態を把握し、受診にはどの職 員でも同行して対応できるよう努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 定期的に看護記録を作成することで、看護師との情報の共有 を行っている。看護師が来訪した際には、適切な傷の処置方 法等、医療面での相談やアドバイスを受けている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には治療方法や入院期間等の話し合いをしたり、退院 時にはこれからの治療方法や退院してからの支援方法に関す るカンファレンスを開いている。 入院中の様子についても看護師やソーシャルワーカーと連携 をとっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に終末期の在り方について話し合いを行ったり、入居 後、重度化された際には本人様が最後まで安心して過ごすこ とができるよう、ご家族、病院、事業所を交え話し合いを 行っている。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、事業所の取組みを利用者 や家族に説明している。今までに事業所での看取り介護の経 験はないが、管理者は要望に添えるよう継続して職員への研 修を実施していきたいと考えている。退院時のカンファレン スで、医師から「今後看取りになるかもしれない」と言われ ている利用者があり、管理者は家族の意見も聞きながら対応 していきたいと考えている。</p>	看取りに関する勉強会等は実施されているが、看取り 経験がないため、協力医等の協力を得ながら、職員が 具体的に段階に応じた支援が不安なく行えるよう努 め、利用者や家族が安心して終末期の生活を送れる対 応ができることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 「AED」を設置し、使用方法の講習や、外部講師に来ていただき救急救命の仕方も学んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練と月1回の防火自主点検を実施している。外部の方が駆け付けた際に、利用者様の状態やホーム内が分かるよう入口に室内図や車いすのマークをつけている。  (外部評価) 年2回、運営推進会議の参加者、地区の消防団等の協力を得ながら避難訓練等を実施している。各居室の出入り口や非常口にある室内図には、車いすが必要な利用者の災害発生時の避難誘導の際、外部の方にも分かりやすく迅速に対応できるよう車いすのマークを表示している。特段の備蓄はしていないが、常に3日分の食料などを確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の生活歴や、性格、趣味等を把握することで個別に応じた声かけを行っている。 また、日々の生活においても、その場その場に応じた声かけができるよう気をつけている。  (外部評価) 管理者は、できる限り利用者の今までの生活スタイルやリズムを活かした、その人に合った生活が送れるように考えて支援している。声かけなど職員は過度にかしこまる必要はないと考えているが、横柄な言葉づかいには注意している。「している、させている」などの言葉を使わないよう指導し、職員は気をつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員本位の介護ではなく、本人様主体の生活が送られるよう心掛けている。衣類、外出、食事等、日常生活の場において、なるべく多く、本人様が自己決定できるような機会をつくっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活スタイルに合わせ、食事や入浴、外出等の支援を行うようにしている。また1日1日がグループホーム全体ではなく、個別に流れるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧品や衣類等、できるだけ本人様と一緒に買い物に出かけ、本人様に選んでいただくようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事が出来上がる前の食材を見てもらったり、一緒にメニューを考えたりしている。また、一人ひとりに役割をもってもらい、食事の準備や片づけを行っている。  (外部評価) メニューはその日にある材料を見て、利用者と職員と一緒に考えている。行事など特別な場合にも利用者と相談して献立を考え、食材なども利用者と一緒に買い物に出かけている。野菜切りや片付けなど利用者ができることを一緒に手伝っている。利用者の好みの献立を確認して取り入れながら、お弁当を持って出かけたり外食をしたりするなど、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせた食事形態や、水分量を提供している。好き嫌いやアレルギーに関しては可能な限り別メニューの提供を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態に合わせて、声かけや見守り、介助等行っている。口腔内の清潔を保つことで、誤嚥・肺炎防止や食欲の向上に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、個々の排泄リズムの把握を行っている。排泄のリズムを把握することで本人様に負担なく自然な流れでの排泄が行えるよう努めている。 トイレには利用者様が分かりやすい表示を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導などを行うことにより、リハビリパンツから失禁対応の布パンツに改善された利用者もいる。トイレは車いすでも使用できる広さがあり、排泄しやすいよう跳ね上げ式手すりを設置している。日中は極力トイレで排泄できるよう支援しており、状態に合わせてポータブルトイレを使用している利用者もいるが、一人ひとりの能力やパターンを活かした支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分、乳製品の摂取、栄養士の助言等を受け、自然排便を促せるよう心がけている。 自然排便が困難な方については、服薬にて排便調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時には、本人様に入浴の確認を行っている。入浴を希望されない方は時間帯をずらしたり、シャワー浴や部分浴の対応を行っている。また、楽しんで入浴ができるようゆず湯や入浴剤を使用したりしている。	
			(外部評価) 週3回を基本として、利用者の希望や意向に沿って入浴できるよう支援している。事業所には浴槽が2か所あり、利用者の身体状況に応じてリフト浴を使用するなど、安心安全に入浴することができる。湯船に浸かることができない場合には、シャワー浴や足浴で対応している。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず入浴日を変更している。現在、同性介助は行っていないが、管理者は利用者から要望があれば対応することを考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間を決めるのではなく、眠たいときに眠られるよう支援している。眠れないときは、テレビを観たり温かい飲み物の提供等を行い、スムーズな入眠ができるよう室温調整や、衣類調整も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋一覧表を作成し、受診時や服薬変更時には全職員が目を通し理解するよう努めている。 副作用が現れた際には病院に連絡し指示を仰ぐようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人様やご家族から生活歴や趣味等を聴き、一人ひとりに合った余暇活動（カラオケ、園芸、散歩、生け花、将棋等）を取り入れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節感を感じられる場所や思い出の場等、その日の希望や体調に合わせて個別や大人数での外出を行っている。外出、外泊も自由なのでご家族と一緒に外出をされる方もおられる。	
			(外部評価) 事業所の庭は広く、利用者の日常生活の中にプランターで育てているトマトや花などの水やりを兼ねた外気浴や散歩は定着している。近くの池に弁当を持って出かけることもある。また、家族と一緒に受診や外出をされた帰りに外食などされる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりが買い物バッグを持っており、受診の帰りや、外出した際に、お土産やジュース等を買われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ自由に電話ができ、どこでも電話ができるよう子機を使用している。年賀状ではご家族にメッセージを書いていたいたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人様が作成した作品を展示したり、季節の花を飾ったりすることで、居心地よい空間づくりに努めている。また、自然の光をとりいれたり、湿度、室温調整を行い不快な気持ちにならないような環境配慮も行っている。</p> <p>(外部評価) 玄関には生け花を飾っているほか水槽で亀を飼育しており、ゆったりとした空間が保たれている。共用の居間は畳スペースや大きなテーブル、ソファが配置され、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。手作りのカレンダーがあり、毎日利用者が日めくりをしている。壁には正月の飾り付けをするなど、季節感が味わえる環境となっている。また、加湿器を置き、適度な室温や湿度を保ち、利用者が過ごしやすい空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 2, 3人で座れるソファやリクライニングチェア等を置き、一人ひとりが自由に過ごせるような居場所づくりをしている。ホール横には和室もあり、畳の上でくつろげるようになっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使われていた布団や衣類等を持参していただいたり、居室にご家族の写真を飾ったりしている。タンスのような重い家具の運搬が困難な方には、お手伝いをさせてもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には額に入った切絵をネームプレートにして飾っており、洗面台、エアコン、クローゼット、ベッドが備え付けられている。クローゼットには、利用者と職員が相談しながら下段にはカーテンを取りつけ、人の眼に触れないものを置く場所などを作り、利用者に配慮した工夫が見られた。利用者は寝具など使い慣れた物を自由に持ち込むことができる。居室の清掃は利用者自身で行い、職員はできない場所などを手伝っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりや車いす対応のトイレを設置しており、歩行困難な方や車いす利用者が安全に暮らせるよう配慮している。風呂場にはリフト浴も備えている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900488
法人名	吉田興産有限会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 19 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に囲まれている場所に位置しており、桜やコスモス、紅葉等、季節感を肌で感じることができる場所にあります。</li> <li>・近くに小学校があり、定期的な交流会を図ったり、年1回近隣の方を招いた納涼祭を開催したりとグループホーム内外の行事に参加したり、開催したりもしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園に囲まれた自然豊かな環境の中に、2階建て事業所は建てられている。居室の窓からは、河川敷の桜並木など四季折々の草木の移り変わりや、時折走る一両編成の汽車を見ながら日常生活をゆったりと過ごすことができる。玄関ホールの大いなる水槽には亀を飼っており、来客者を出迎えてくれる。管理者は事業所の理念である「笑顔と思いやり」を念頭に置き、利用者や家族、近隣住民、職員に対して優しい対応や声かけに努めている。事業所で七夕や納涼祭、節分などを開催する際には、公民館や短大などにパンフレットを置いてもらう周知の工夫をしており、近くの小学生や地域住民の参加が定着している。短大の実習を受け入れたり、コーラスや楽器演奏、紙しばいのボランティアの訪問も多いほか、近隣住民から野菜などのおすそ分けをもらう関係ができており、地域に密着した事業所づくりをしている。また、管理者や職員が一丸となって、尊厳ある支援をしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 富永 正樹

評価完了日 平成 26 年 12 月 19 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 見えやすいところに事業所理念を掲示し、日々確認をしながら日常生活のケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 「笑顔と思いやり」という理念を基にして、認知症という病気を理解しながら、声かけなど利用者への優しい支援を心がけている。事業所として会議や事業所での話し合いの中で理念の確認を行っている。毎年年末に行われる法人での合同会議では、各職員が個人の年間目標を立て、日常の支援に活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームで行事を行う際には、近隣の方々に参加していただいたり、こちらから出向いていたりしている。また、近所の方から野菜をいただいたり、ボランティアの方にも来ていただいている。</p> <p>(外部評価) 近隣住民が育てた野菜のおすそ分けをもらうことも多く、野菜の入っているキャリーを見て近所のどこの人が持ってきてくれたか分かる関係性が築けている。最近ではゆずをいただき、利用者はゆず湯を楽しんでいる。事業所では七夕や納涼祭、節分などを開催する際には、公民館や短大などにパンフレットを置いてもらう周知の工夫をしており、近くの小学生や地域住民の参加が定着している。また、短大の実習を受け入れたり、コーラスや楽器演奏、紙しばいのボランティアの訪問があり、交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 実習生やボランティアの方たちの受け入れ等を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者様の日常生活の様子やサービス提供情報等も毎回報告している。 推進委員の方々も積極的に行事等にも参加していただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域住民、町担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。参加者から会議の司会進行やあいさつなどを事業所以外で行いたいという意見が出され、実践している。会議では事業所の取組みなどを紹介すると、次回までの取組みに関して提案ももらっている。利用者本人や家族の参加が少ないため、管理者は参加しやすくなるよう検討しているほか、会議と合わせて勉強会なども議題に含めることも検討している。また、テープ起こしをして会議録を作成して、事細かく活発に意見交換をされている様子を伺うことができる、	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域で開かれる研修等の案内や定期的に介護保険状況報告を受けたりしている。空き情報の連絡をとり、待機者の負担軽減にも心がけている。	
			(外部評価) 運営推進会議などを活用して、事業所の空き状況や利用者の状況等を伝え、町担当者や地域包括支援センター職員との連携に努めている。また、介護保険の更新時などには町担当課の窓口へ直接出向いている。また、町や地域包括支援センター主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束となる行為や身体拘束を行わないケアについての話し合いをスタッフ会議等で行っている。 安全上やむを得ない場合は、ご家族に説明、相談し理解のうえ許可を得ている。	
			(外部評価) 定期的にスタッフ会議で身体拘束に関する研修を実施し、職員は理解している。ユニットの出入口は日中オートロックを解除し、利用者が自由に行き来できるようにしている。現在、拘束となる行為は行っていないが、必要なケースが出た場合にはスタッフ間で検討を行い、管理者は拘束しなくても対応できることを考慮していきたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の研修に参加したり、内部で勉強会を開催することで虐待防止の徹底を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修で学んだことを、内部の研修に活かすことで全職員の周知を図っている。また、ご家族より相談等があった際には、必要に応じて相談、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書、重要事項説明書に添い説明している。不安や疑問点についても尋ね、十分な説明が行えるようにしている。介護報酬改定の際には、説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付の第三者機関を掲示したり、意見等を投函できる意見箱を設置している。ご家族面会時には日常生活の様子や要望等がないかこちらから声かけするようにしている。	
			(外部評価) 日常生活支援の中で、利用者の会話や表情から意向を確認している。家族には面会時など管理者やリーダーから積極的に話しかけ、意見を言いやすい環境を提供している。また、遠方の家族には毎月事業所だよりの送付時に、利用者の状況等を記載して報告をしている。玄関には手作りの意見箱を設置しているが、管理者は「ほとんど意見は出されない」と話されていた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 自由に意見や提案を出せるように気づきの箱を設置している。また、意見を出してもらっただけでなく、職員に意見、要望等がないか聴く姿勢にも努めている。	
			(外部評価) 定期的に行われるスタッフ会議で職員から意見を聞いている。職員から意見を言いにくい場合があることも想定されるため、管理者は職員一人ひとりから夜勤帯などを利用して意見を聞いている。新人職員には頻繁に管理者から声をかけ、意見を聞いたり相談に応じるようしている。また、職員への「気づき箱」も設置し、レクリエーションの充実のための物品や調理器具購入などの意見や提案が出され購入するなど、職員の意見を反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員に適した勤務体制づくりや、定期的に話し合う機会を設け希望等も聴いている。 また、毎年の目標を掲げ、振り返ることで日々の向上にもつなげている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示したり、資格取得についての相談、アドバイスも行いながら資格取得の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業者の勉強会やイベントに参加したり、こちらのイベントにも参加していただいたりと交流を図っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただいたり、本人様の生活歴や昔話等を聴かせていただき、入居した際には、本人様の生活していた環境により近い支援ができるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用するにあたり、ご家族が抱えている悩み等を聴き、安心して入居していただけるように支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居するのではなく、本人様、ご家族が今一番必要としているサービスの支援ができるように話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その日の体調に応じお手伝いをさせていただいたり、一緒に家事を行い、共に支えあい生活しているという環境づくりを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、本人様の状態を報告するとともに、月1回の状態報告書も送付するようにしている。遠方から来られるご家族のためにも宿泊できる環境も整えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 駅、バス停等から来訪することが困難な方には事業所での送迎を行ったり、遠方から来られた方には宿泊できる環境も整えている。 また、本人様と馴染みの深い場所にドライブに行ったり、買い物をしたりしている。 (外部評価) 遠方の家族が面会に来やすいよう事業所内で宿泊できるよう配慮しており、公共交通機関を利用する場合は利用者と一緒近くの駅まで家族を送迎する場合もある。利用者が昔から通っている「たいこまん」の店に行ったり、昔良く参拝していた神社に散歩に出かけたりするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また、外出した際には生家に立ち寄る場合もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関係を把握するにあたり、個々の性格や気持ちを職員が理解し、必要な際には職員が間に入り利用者様同士の関わりが築いていけるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院によって退居された方には、オムツ購入の支援やお見舞いにも行かせていただき、必要、要望に応じ相談支援等を行い、すぐに関係が断ち切れることのないようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の行動や表情、自然な会話の中からその人の思いや希望を汲み取るようにしている。上手に思いが汲み取ることができない本人様に対しては過去の生活歴や日常生活の様子から希望に沿えることができるよう努めている。  (外部評価) 利用者毎の担当職員が、日頃の支援を通して会話や表情、行動から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。聞き取りや思いの把握が困難な利用者には、家族や利用開始前の事業所担当者、馴染みの人などから情報をもらい、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様やご家族から生活歴や趣向等の情報を聴き、これまでの暮らしの把握に努めている。 前の事業所などの担当者の方にも連絡をとり、情報提供をしていただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活において”できない部分”のみに焦点をあてるのではなく、”できる部分”の把握に努め、できない部分に対してのみの支援を心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様、ご家族の希望を取り入れたプランの作成に努めている。また、担当者会議や日々のケアを通して本人様の意向に沿った支援ができているか確認したり、プランに基づいた介護を職員が統一して行えるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を確認しながら、より良く暮らすためにはどうすれば良いかを利用者毎の担当者に確認し、介護職からの意見も取り入れて介護計画を作成している。作成された計画は職員全員に周知し、確認したらサインをもらうようにしている。新人職員にも介護計画の見方など分かりやすいよう説明している。介護計画の更新時の会議には、家族の参加が少ないがあらかじめ電話などで要望を聞くようにしている。また、介護支援専門員が定期的に職員に意見を聞きながらモニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを作成し、日々の様子や状態、ケアの実践等を記入している。記録をもとに職員間で情報を共有し、ケアの方法や介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅生活が可能となった場合には、状況に応じて訪問介護やグループホームへのショートステイも可能である。また、介護タクシーを利用することで、遠方へ出かける際の体の負担軽減も図っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域で行われる行事への参加や、学校との交流会も開いている。また、その人に応じた病院の選択や地域の消防団の方々とも連携をとっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居前に本人様やご家族と相談し、かかりつけ医を決めてい る。個別に受診ノートを作成し、職員は必ず目を通すように している。本人様の状態に応じ、内科だけでなく、眼科や歯 科への通院支援も行っている。 ご家族には報告を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう配 慮している。協力医と連携が取れているため、かかりつけ医 を協力医に変更する利用者も多い。専門的な治療が必要に なった場合には、協力医を含めて適切な対応をしている。遠 方の病院以外の受診は職員が同行し、受診ノートを活用して 職員全員が目を通し情報を共有できるようにしている。看護 職員と連携しながら利用者の状態を把握し、受診にはどの職 員でも同行して対応できるよう努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 定期的に看護記録を作成することで、看護師との情報の共有 を行っている。看護師が来訪した際には、適切な傷の処置方 法等、医療面での相談やアドバイスを受けている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には治療方法や入院期間等の話し合いをしたり、退院 時にはこれからの治療方法や退院してからの支援方法に関す るカンファレンスを開いている。 入院中の様子についても看護師やソーシャルワーカーと連携 をとっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に終末期の在り方について話し合いを行ったり、入居 後、重度化された際には本人様が最後まで安心して過ごすこ とができるよう、ご家族、病院、事業所を交え話し合いを 行っている。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、事業所の取組みを利用者 や家族に説明している。今までに事業所での看取り介護の経 験はないが、管理者は要望に添えるよう継続して職員への研 修を実施していきたいと考えている。退院時のカンファレン スで、医師から「今後看取りになるかもしれない」と言われ ている利用者があり、管理者は家族の意見も聞きながら対応 していきたいと考えている。</p>	看取りに関する勉強会等は実施されているが、看取り 経験がないため、協力医等の協力を得ながら、職員が 具体的に段階に応じた支援が不安なく行えるよう努 め、利用者や家族が安心して終末期の生活を送れる対 応ができることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 「AED」を設置し、使用方法の講習や、外部講師に来ていただき救急救命の仕方も学んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練と月1回の防火自主点検を実施している。外部の方が駆け付けた際に、利用者様の状態やホーム内が分かるよう入口に室内図や車いすのマークをつけている。  (外部評価) 年2回、運営推進会議の参加者、地区の消防団等の協力を得ながら避難訓練等を実施している。各居室の出入り口や非常口にある室内図には、車いすが必要な利用者の災害発生時の避難誘導の際、外部の方にも分かりやすく迅速に対応できるよう車いすのマークを表示している。特段の備蓄はしていないが、常に3日分の食料などを確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の生活歴や、性格、趣味等を把握することで個別に応じた声かけを行っている。 また、日々の生活においても、その場その場に応じた声かけができるよう気をつけている。  (外部評価) 管理者は、できる限り利用者の今までの生活スタイルやリズムを活かした、その人に合った生活が送れるように考えて支援している。声かけなど職員は過度にかしこまる必要はないと考えているが、横柄な言葉づかいには注意している。「している、させている」などの言葉を使わないよう指導し、職員は気をつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員本位の介護ではなく、本人様主体の生活が送られるよう心掛けている。衣類、外出、食事等、日常生活の場において、なるべく多く、本人様が自己決定できるような機会をつくっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活スタイルに合わせ、食事や入浴、外出等の支援を行うようにしている。また1日1日がグループホーム全体ではなく、個別に流れるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧品や衣類等、できるだけ本人様と一緒に買い物に出かけ、本人様に選んでいただくようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事が出来上がる前の食材を見てもらったり、一緒にメニューを考えたりしている。また、一人ひとりに役割をもってもらい、食事の準備や片づけを行っている。  (外部評価) メニューはその日にある材料を見て、利用者と職員と一緒に考えている。行事など特別な場合にも利用者と相談して献立を考え、食材なども利用者と一緒に買い物に出かけている。野菜切りや片付けなど利用者ができることを一緒に手伝っている。利用者の好みの献立を確認して取り入れながら、お弁当を持って出かけたり外食をしたりするなど、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせた食事形態や、水分量を提供している。好き嫌いやアレルギーに関しては可能な限り別メニューの提供を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態に合わせて、声かけや見守り、介助等行っている。口腔内の清潔を保つことで、誤嚥・肺炎防止や食欲の向上に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、個々の排泄リズムの把握を行っている。排泄のリズムを把握することで本人様に負担なく自然な流れでの排泄が行えるよう努めている。 トイレには利用者様が分かりやすい表示を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導などを行うことにより、リハビリパンツから失禁対応の布パンツに改善された利用者もいる。トイレは車いすでも使用できる広さがあり、排泄しやすいよう跳ね上げ式手すりを設置している。日中は極力トイレで排泄できるよう支援しており、状態に合わせてポータブルトイレを使用している利用者もいるが、一人ひとりの能力やパターンを活かした支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分、乳製品の摂取、栄養士の助言等を受け、自然排便を促せるよう心がけている。 自然排便が困難な方については、服薬にて排便調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時には、本人様に入浴の確認を行っている。入浴を希望されない方は時間帯をずらしたり、シャワー浴や部分浴の対応を行っている。また、楽しんで入浴ができるようゆず湯や入浴剤を使用したりしている。	
			(外部評価) 週3回を基本として、利用者の希望や意向に沿って入浴できるよう支援している。事業所には浴槽が2か所あり、利用者の身体状況に応じてリフト浴を使用するなど、安心安全に入浴することができる。湯船に浸かることができない場合には、シャワー浴や足浴で対応している。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず入浴日を変更している。現在、同性介助は行っていないが、管理者は利用者から要望があれば対応することを考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間を決めるのではなく、眠たいときに眠られるよう支援している。眠れないときは、テレビを観たり温かい飲み物の提供等を行い、スムーズな入眠ができるよう室温調整や、衣類調整も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋一覧表を作成し、受診時や服薬変更時には全職員が目を通し理解するよう努めている。 副作用が現れた際には病院に連絡し指示を仰ぐようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人様やご家族から生活歴や趣味等を聴き、一人ひとりに合った余暇活動（カラオケ、園芸、散歩、生け花、将棋等）を取り入れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節感を感じられる場所や思い出の場等、その日の希望や体調に合わせて個別や大人数での外出を行っている。外出、外泊も自由なのでご家族と一緒に外出をされる方もおられる。  (外部評価) 事業所の庭は広く、利用者の日常生活の中にプランターで育てているトマトや花などの水やりを兼ねた外気浴や散歩は定着している。近くの池に弁当を持って出かけることもある。また、家族と一緒に受診や外出をされた帰りに外食などされる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりが買い物バッグを持っており、受診の帰りや、外出した際に、お土産やジュース等を買われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ自由に電話ができ、どこでも電話ができるよう子機を使用している。年賀状ではご家族にメッセージを書いていたいたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人様が作成した作品を展示したり、季節の花を飾ったりすることで、居心地よい空間づくりに努めている。また、自然の光をとりいれたり、湿度、室温調整を行い不快な気持ちにならないような環境配慮も行っている。</p> <p>(外部評価) 玄関には生け花を飾っているほか水槽で亀を飼育しており、ゆったりとした空間が保たれている。共用の居間は畳スペースや大きなテーブル、ソファが配置され、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。手作りのカレンダーがあり、毎日利用者が日めくりをしている。壁には正月の飾り付けをするなど、季節感が味わえる環境となっている。また、加湿器を置き、適度な室温や湿度を保ち、利用者が過ごしやすい空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 2, 3人で座れるソファやリクライニングチェア等を置き、一人ひとりが自由に過ごせるような居場所づくりをしている。ホール横には和室もあり、畳の上でくつろげるようになっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使われていた布団や衣類等を持参していただいたり、居室にご家族の写真を飾ったりしている。タンスのような重い家具の運搬が困難な方には、お手伝いをさせてもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には額に入った切絵をネームプレートにして飾っており、洗面台、エアコン、クローゼット、ベッドが備え付けられている。クローゼットには、利用者と職員が相談しながら下段にはカーテンを取りつけ、人の眼に触れないものを置く場所などを作り、利用者に配慮した工夫が見られた。利用者は寝具など使い慣れた物を自由に持ち込むことができる。居室の清掃は利用者自身で行い、職員はできない場所などを手伝っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりや車いす対応のトイレを設置しており、歩行困難な方や車いす利用者が安全に暮らせるよう配慮している。風呂場にはリフト浴も備えている。</p>	